

介護には愛情が一番だと思う。介護するようになって、そうした想いはより深まった気がする。介護の情報は本や週刊誌、認知症の記事等をフアイリングしていた。

月に一回、近所の高齢者センターで行われる介護の会に行くようになり、妻も連れていった。ここで初めて介護に関して相談することができるようになった。近所には認知症の介護をしている人はいなかった上、介護にマニュアルなどがあるわけではないから、今後私と同じように家族介護をする人は大変だと思う。

結局、最後は人から薦められて妻は入院をさせてしまったが、結局は病院で誰にも看取られることなく、ひとりの時間の時に亡くなったので、まるで院内孤独死のようなものであった。死ぬのがわからなかったのかという気持ちがあるが、今は感じない。今は気持ちを切り替えていかないと、思っている。

子供は男の子、孫も長男に男の子が二人いる。長男は同居しようと言ってくれるが、断っている。妻の介護の時は子供も時々来てくれた。子供に迷惑をかけたくないと思っているが、自分が死ぬときは希望としては、しっかり別れを言ってから死にたい。もちろん、これまで生きてきたこの家で死にたい。



# 介護語り

かいごがた

みとがた  
看取り語り